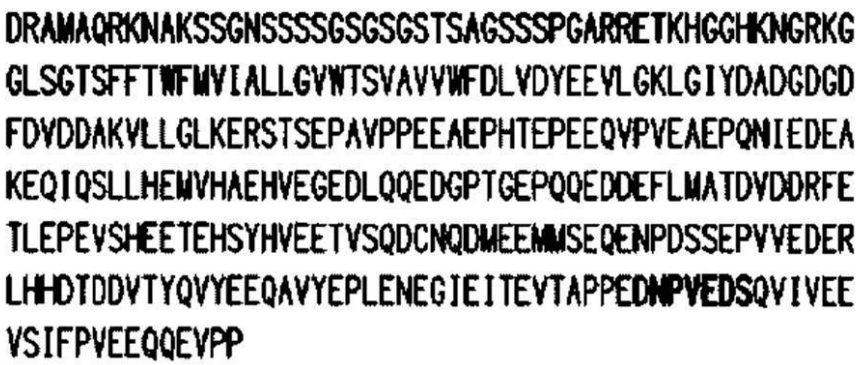
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成30年8月9日(2018.8.9)

【公表番号】特表2016-520292(P2016-520292A)
【公表日】平成28年7月14日(2016.7.14)
【年通号数】公開・登録公報2016-042
【出願番号】特願2016-503419(P2016-503419)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　7/01　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/76　(2015.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/04　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　48/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/39　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/12　(2006.01)
Ｃ１２Ｐ　33/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　7/01　ＺＮＡ
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ａ
Ａ６１Ｋ　35/76
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　37/04
Ａ６１Ｋ　39/00　Ｈ
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｋ　39/39
Ａ６１Ｋ　39/12
Ｃ１２Ｐ　33/06

【誤訳訂正書】
【提出日】平成30年7月2日(2018.7.2)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列を含む、バクテリオファージであって、構築物Ｉのアミノ酸配列
：

【化２】

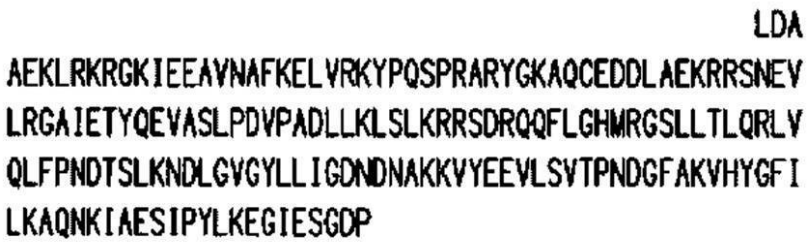


を含む、バクテリオファージ。

【請求項２】

前記バクテリオファージが構築物ＩＩのアミノ酸配列：

【化３】

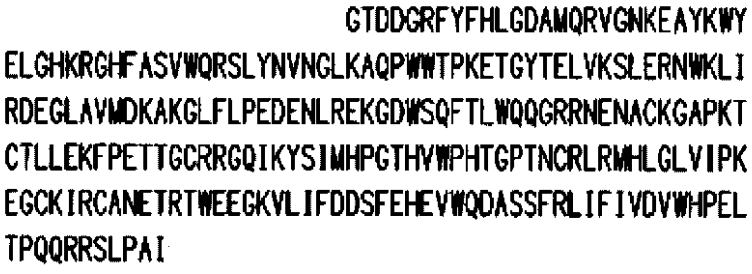


をさらに含む、請求項１に記載のバクテリオファージ。

【請求項３】

前記バクテリオファージが構築物ＩＩＩのアミノ酸配列：

【化４】



をさらに含む、請求項１に記載のバクテリオファージ。

【請求項４】

前記バクテリオファージが、ラムダ、Ｔ４、Ｔ７、およびＭ１３／ｆ１からなる群より選択される、請求項１に記載のバクテリオファージ。

【請求項５】

前記バクテリオファージがバクテリオファージラムダである、請求項４に記載のバクテリオファージ。

【請求項６】

癌を処置するための、請求項１～５のいずれか１項に記載のバクテリオファージを含む、組成物。

【請求項７】

アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ

酸配列をコードする少なくとも１つのヌクレオチド配列、およびｇｐＤをコードするヌクレオチド配列を含む、核酸構築物であって、該アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列は、構築物Ｉのアミノ酸配列：

【化５】

DRAMAQRKNAKSSGNSSSSGSGSGSTSAGSSSPGARRETKHGGHKNGRKG
GLSGTSFFTWFMVIALLGVWTSVAVVWFDLVDYEEVLGKLGIYDADGDGD
FDVDDAKVLLGLKERSTSEPAVPPEEAEPHTEPEEQVPVEAEPQNIEDEA
KEQIQSLLHEMVHAEHVEGEDLQQEDGPTGEPQQEDDEFLMATDVDDRFE
TLEPEVSHEETEHSYHVEETVSQDCNQDMEEMMSEQENPDSSEPVVEDER
LHHDTDDVTYQVYEEQAVYEPLENEGIEITEVTAPPEDMPVEDSQVIVEE
VSIFPVEEQQEVPP

を含む、核酸構築物。

【請求項８】

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が、構築物ＩＩのアミノ酸配列：

【化６】

LDA
AEKLRKRGKIEEAVNAFKELVRKYPQSPRARYGKAQCEDDLAEKRRSNEV
LRGAIETYQEVASLPDVPADLLKLSLKRRSDRQQFLGHMRGSLLTLQRLV
QLFPNDTSLKNDLGVGYLLIGDNDNAKKVYEEVLSVTPNDGFAKVHYGFI
LKAQNKIAESIPYLKEGIESGDP

をさらに含む、請求項７に記載の核酸構築物。

【請求項９】

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が、構築物ＩＩＩのアミノ酸配列：

【化７】

GTDDGRFYFHLGDAMQRVGNKEAYKWY
ELGHKRGHFASVWQRSLYNVNGLKAQPWWTPKETGYTELVKSLERNWKLI
RDEGLAVMDKAKGLFLPEDENLREKGDWSQFTLWQQGRRNENACKGAPKT
CTLLEKFPETTGCRRGQIKYSIWHPGTHVWPHTGPTNCRLRWHLGLVIPK
EGCKIRCANETRTWEEGKVLIFDDSFEHEVWQDASSFRLIFIVDVWHPEL
TPQQRRSLPAI

をさらに含む、請求項７に記載の核酸構築物。

【請求項１０】

請求項７～９のいずれか１項に記載の核酸構築物を含む組換えラムダファージ。

【請求項１１】

ナノ粒子を含む組成物であって、該ナノ粒子がアスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列をさらに含み、該ナノ粒子は、構築物Ｉのアミノ酸配列：

【化８】

DRAMAQRKNAKSSGNSSSSGSGSGSTSAGSSSPGARRETKHGGHKNGRKG
GLSGTSFFTWFMVIALLGVWTSVAVVWFDLVDYEEVLGKLGIYDADGDGD
FDVDDAKVLLGLKERSTSEPAVPPEEAEPHTEPEEQVPVEAEPQNIEDEA
KEQIQSLLHEMVHAEHVEGEDLQQEDGPTGEPQQEDDEFLMATDVDDRFE
TLEPEVSHEETEHSYHVEETVSQDCNQDMEEMMSEQENPDSSEPVVEDER
LHHDTDDVTYQVYEEQAVYEPLENEGIEITEVTAPPEDNPVEDSQVIVEE
VSIFPVEEQQEVPP

を含む、組成物。

【請求項１２】

前記ナノ粒子が構築物ＩＩのアミノ酸配列：

【化９】

LDA
AEKLRKRGKIEEAVNAFKELVRKYPQSPRARYGKAQCEDDLAEKRRSNEV
LRGAIETYQEVASLPDVPADLLKLSLKRRSDRQQFLGHMRGSLLTLQRLV
QLFPNDTSLKNDLGVGYLLIGDNDNAKKVYEEVLSVTPNDGFAKVHYGFI
LKAQNKIAESIPYLKEGIESGDP

をさらに含む、請求項１１に記載の組成物。

【請求項１３】

前記ナノ粒子が構築物ＩＩＩのアミノ酸配列：

【化１０】

GTDDGRFYFHLGDAMQRVGNKEAYKWY
ELGHKRGHFASVWQRSLYNVNGLKAQPWWTPKETGYTELVKSLERNWKLI
RDEGLAVMDKAKGLFLPEDENLREKGDWSQFTLWQQGRRNENACKGAPKT
CTLLEKFPETTGCRRGQIKYSIMHPGTHVWPHTGPTNCRLRMHLGLVIPK
EGCKIRCANETRTWEEGKVLIFDDSFEHEVWQDASSFRLIFIVDVWHPEL
TPQQRRSLPAI

をさらに含む、請求項１１に記載の組成物。

【請求項１４】

癌を処置するための、請求項１１～１３のいずれか１項に記載の組成物。

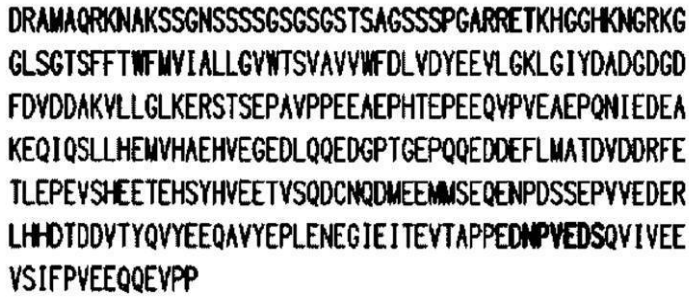
【請求項１５】

癌を処置するための、請求項１１～１３のいずれか１項に記載の組成物であって、該組成物が患者の樹状細胞と接触させられることを特徴とする、組成物。

【請求項１６】

癌を処置するための組成物であって、ラムダファージを含み、該ラムダファージがそれらの表面に発現されたアスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列を含み、該ラムダファージが、構築物Ｉのアミノ酸配列：

【化１１】

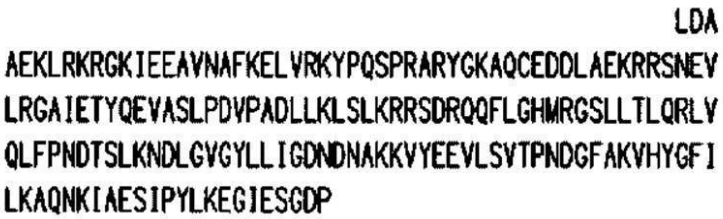


を含む、組成物。

【請求項１７】

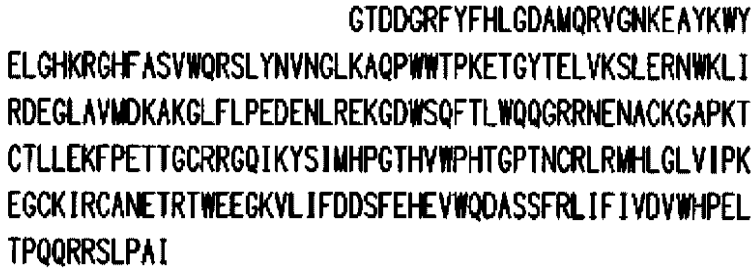
前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列が、構築物ＩＩのアミノ酸配列、および構築物ＩＩＩのアミノ酸配列をさらに含み、ここで、構築物ＩＩのアミノ酸配列は、

【化１２】



であり、構築物ＩＩＩのアミノ酸配列は、

【化１３】



である、請求項１６に記載の組成物。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００８】

本発明はまた、ＨＡＡＨに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列を含むナノ粒子を意図する。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００９

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００９】
本発明はまた、癌を処置する方法であって、免疫系刺激量のラムダファージを患者に提供する工程を含み、ここで、上記ラムダファージは、その表面に発現されたＨＡＡＨに本来備わっているアミノ酸配列を含む、方法を包含する。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１０】
本発明はまた、癌を処置する方法であって、免疫系刺激量のナノ粒子を患者に提供する工程を含み、ここで、上記ナノ粒子は、ＨＡＡＨに本来備わっているアミノ酸配列を含む、方法を包含する。

【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１１】
本発明の１つの実施形態は、ＨＡＡＨに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列を含むバクテリオファージであって、ここで、ＨＡＡＨに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列は、構築物Ｉのアミノ酸配列、構築物ＩＩのアミノ酸配列、および構築物ＩＩＩのアミノ酸配列からなる群より選択される、バクテリオファージを意図する。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
本発明の実施形態はまた、ＨＡＡＨに本来備わっているアミノ酸配列をコードする少なくとも１つのヌクレオチド配列、およびバクテリオファージラムダヘッドデコレーションタンパク質Ｄ（本明細書中以後、「ｇｐＤ」）をコードする核酸配列を含む核酸構築物を意図する。

【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５５】
本発明は、その特定の例示的な実施形態を参照して記載されてきたが、当業者は、本発明の範囲から逸脱することなく本発明の記載された実施形態に様々な変更を行ってもよい。本明細書において使用される用語および説明は、例示のみによって示され、限定を意味しない。特に本発明は、実施例によって記載されているが、様々な組成物およびプロセスにより、本明細書に記載される本発明の技術思想が実施される。本発明は、様々な用語および特定の実施形態において記載および開示されてきたが、本発明の範囲は、様々な用語および特定の実施形態によって限定されることを意図するものではなく、様々な用語およ

び特定の実施形態によって限定されるように見なされるべきでもなく、そして本明細書における教示によって示唆され得るようなこのような他の変更または実施形態は、とりわけ、添付の特許請求の範囲の幅および範囲内に含まれるものとして、特に留保される。当業者は、以下の特許請求の範囲およびそれらの等価物において定義されるように、これらおよび他の変形が本発明の範囲内で可能であることを認識する。

例えば、本発明は以下の項目を提供する。

（項目１）

アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列を含む、バクテリオファージ。

（項目２）

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が構築物Ｉのアミノ酸配列からなる群より選択される、項目１に記載のバクテリオファージ。

（項目３）

前記バクテリオファージが構築物ＩＩのアミノ酸配列を含む、項目１に記載のバクテリオファージ。

（項目４）

前記バクテリオファージが構築物ＩＩＩのアミノ酸配列を含む、項目１に記載のバクテリオファージ。

（項目５）

前記バクテリオファージが、ラムダ、Ｔ４、Ｔ７、およびＭ１３／ｆ１からなる群より選択される、項目１に記載のバクテリオファージ。

（項目６）

前記バクテリオファージがバクテリオファージラムダである、項目５に記載のバクテリオファージ。

（項目７）

癌を処置する方法であって、免疫系刺激量の項目１に記載のバクテリオファージを患者に提供する工程を含む、方法。

（項目８）

アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列をコードする少なくとも１つのヌクレオチド配列、およびｇｐＤをコードするヌクレオチド配列を含む、核酸構築物。

（項目９）

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が構築物Ｉのアミノ酸配列である、項目８に記載の核酸構築物。

（項目１０）

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が構築物ＩＩのアミノ酸配列である、項目８に記載の核酸構築物。

（項目１１）

前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が構築物ＩＩＩのアミノ酸配列である、項目８に記載の核酸構築物。

（項目１２）

項目８に記載の核酸構築物を含む組換えラムダファージ。

（項目１３）

ナノ粒子を含む組成物であって、該ナノ粒子がアスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列をさらに含む、組成物。

（項目１４）
前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっている少なくとも１つのアミノ酸配列が構築物Ｉのアミノ酸配列である、項目１３に記載の組成物。
（項目１５）
前記ナノ粒子が構築物ＩＩのアミノ酸配列を含む、項目１３に記載の組成物。
（項目１６）
前記ナノ粒子が構築物ＩＩＩのアミノ酸配列を含む、項目１３に記載の組成物。
（項目１７）
癌を処置する方法であって、免疫系刺激量の項目１３に記載の組成物を患者に提供する工程を含む、方法。
（項目１８）
癌を処置する方法であって、患者の樹状細胞を免疫系刺激量の項目１３に記載の組成物と接触させる工程を含む、方法。
（項目１９）
癌を処置する方法であって、免疫系刺激量のラムダファージを患者に提供する工程を含み、該ラムダファージがそれらの表面に発現されたアスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列を含む、方法。
（項目２０）
前記アスパルチル－［アスパラギニル］－β－ヒドロキシラーゼに本来備わっているアミノ酸配列が、構築物Ｉのアミノ酸配列、構築物ＩＩのアミノ酸配列、および構築物ＩＩＩのアミノ酸配列を含む、項目１９に記載の方法。